

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人宮崎県立芸術劇場	
施 設 名	宮崎県立芸術劇場	
助成対象活動名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	29,645	(千円)
公演事業	22,919	(千円)
人材養成事業	1,219	(千円)
普及啓発事業	5,507	(千円)

(2) 平成30年度実施事業一覧

【公演事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	「演劇・時空の旅」 シリーズ#8 「三文オペラ」	6月22日、23日、24日	作:ベルトルト・ブレヒト 作曲:クルト・ワイル 翻訳:谷川道子 演出:永山智行 出演:穴迫信一、荒木宏志ほか	目標値	560
		演劇ホール舞台上舞台		実績値	602
2	栗コーダーカルテット with ビューティフル ハミングバード	9月15日	〈午前の回〉0さいから楽しむ ウキウキコンサート 〈午後の回〉ゆったり癒しの アフタヌーン・コンサート	目標値	480
		イベントホール		実績値	393
3	こどももおとなも劇場 #3 「ピノキオ」	9月28日、29日	原作:カルロ・コッローディ 脚本・演出:テレーサル・ドヴィコ 台本監修:佐藤信 出演:高田恵篤、KONTAほか	目標値	700
		演劇ホール		実績値	577
4	プレミアムセレクト コンサート#10「サクソ フォンを聴く~Quartet ×カルテット=∞の響 き」	11月3日	出演:ハバナ・サクソフォン・カ ルテット、ブルーオーロラ・サク ソフォン・カルテット 曲目:主よ人の望みの喜びよ 他	目標値	500
		アイザックスターン ホール		実績値	326
5	シリーズ〈大人のため のコンサート ~なる ほどクラシック講座〉 vol.7 東欧の底力	12月7日、9日	出演:クーベリック・トリオ(Pf・ trio)、大嶋義実、浅田結希 (Fl)、桐原直子(企画・ご案内)	目標値	700
		イベントホール、西都 市民会館 舞台上舞台		実績値	374
6	オルガンとその仲間た ちシリーズ2018	1月13日	G. F. ヘンデル「メサイア」 指揮:大塚直哉、演奏:古楽器オー ケストラ、ソリスト・合唱:公募に よる県民合唱団	目標値	400
		アイザックスターン ホール		実績値	541
7	「新 かぼちゃと いもがら物語」#3	2月27日~3月3日	「たのかんさあレンジャー」 作:成井昭人、演出:立山ひろみ 美術:土岐研一、出演:矢柴俊 博、桑原裕子、実広健二 ほか	目標値	700
		イベントホール		実績値	632
8	Manuel Legris「Stars in Blue」BALLET&MUSIC	3月14日	ダンサー:マニユエル・ルグリ、 セミヨン・チュージン ほか 演奏:三浦文彰、田村響	目標値	720
		演劇ホール		実績値	792
9	パイプオルガン プロム ナード・コンサート 土曜の朝はオルガンで ランチを...「オルブ ラ」	6月16日、10月20日 12月1日	出演:安積道也(6月)、土橋薫(10 月)、勝山雅世、花澤絢子(12 月)、司会:伊豆謡子	目標値	700
		アイザックスターン ホール		実績値	460
10	おんがくのおもちゃ箱 シリーズ Part7/Part8	7月21日、2月9日	出演:黒木奈津季(Pf)、大西映 光(Bass)、衛藤和洋(Per) 7月ゲスト:日高慶子(Vn)、 2月ゲスト:熊谷愛香(Fl)	目標値	2,000
		アイザックスターン ホール		実績値	1,355
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	7,460
				実績値	6,052

(2) 平成30年度実施事業一覧

【人材養成事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	トライアル・シアター 2018	5月26日～9月1日	演目：「麵麴屋文六の思案」 原作：岸田國士、演出：鳴海康平 演：オーディションにより選出された県民10名	目標値	202
		練習室、 イベントホール		実績値	189
2	パイプオルガン・チェン バロ講習会2018	4月6日～3月3日	講師：大塚直哉、①入門コース、 ②初級コース、③上級コース、そ れぞれ年4回実施、修了時には演奏 会でその成果を披露	目標値	250
		練習室、アイザックス ターンホール		実績値	250
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	452
				実績値	439

(2) 平成30年度実施事業一覧

【普及啓発事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ニグリノータ「赤桃」	7月14日、15日	作・演出:立山ひろみ、作曲・演奏: 高橋牧、振付:福留麻里、出演:福 留麻里、五島真澄、河内哲二郎	目標値	140
		大練習室2、日向市中央 公民館レクリエーション室		実績値	166
2	Let's 和の音♪	7月28日～8月19日	①はじめてのおけいこ ②かじって みよう! ③ふれててみよう! ④ ワンコインコンサート 制作協力:(有)邦楽ジャーナル	目標値	220
		練習室、アイザックス ターンホール		実績値	272
3	アートな学び舎2018	10月8日～3月8日	全体監修、講師:立山ひろみ 連続講座「舞台に立っちゃう!」「戯 曲を読み解く!」、単独講座「一日だ けの“学び舎”体験」	目標値	130
		練習室、 串間市文化会館		実績値	95
4	アウトリーチ事業 ミュージック・シェアリ ング(音楽アウトリー チ)	5月30日～3月13日	21会場22公演実施 エキシビショ ンコンサート:2月16日 出演:壽山智美、熊谷愛香(Fl)、野 崎さやか、高場涼子(Pf)	目標値	1,550
		県内幼稚園、 小中学校等		実績値	1,172
5	演劇アウトリーチ「けん げきくんがゆく!」	10月4日、11日、11月2 日、12月1日、12日	演目①どんぐりと山猫 原作:宮沢賢治 構成・演出:永山 智行 演目②うさぎとかめ 構成・ 演出:立山ひろみ	目標値	420
		県内小学校、 KITTO小林		実績値	309
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	2,460
				実績値	2,014

【妥当性】

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

宮崎県立芸術劇場は、県民文化の拠点として、舞台芸術を中心に多様な文化活動を促進し、文化の香り高い地域づくりと心豊かな県民生活の創造に寄与することを目的に設置された。平成18年度より当財団が指定管理業務を受託し、管理運営にあっている。

事業実施に際しては、「第三期（平成28年～令和2年）指定管理申請書」（平成27年8月提出）、及び「みやざき文化振興ビジョン（改訂版）」（平成29年7月）に基づき、県民の「みる」「つくる」「つながる」の3つの拠点となることを目指している。

●舞台芸術の拠点形成 「みる」

- ・ホールの特性を最大限に活かした当劇場だからこそできる公演による、県内外からの来場者増
- ・感受性豊かな子どもたちに良質な舞台芸術に触れる機会を提供

●文化創造の拠点形成 「つくる」

- ・宮崎の地域資源、人材を活用した宮崎オリジナルの舞台公演を創造し、「宮崎の今」を発信
- ・宮崎で活動している表現者に活躍の場を提供し、その活動を支援
- ・子どもたちの想像力を育み、本県の未来を担う心豊かな人材を育成

●地域文化の拠点形成 「つながる」

- ・県内各地域へ舞台芸術を届け、県内他施設と連携して地域の文化力向上を支援
- ・県内の表現者を起用することによる舞台芸術への親近感の醸成

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

2020年には、本県で「第35回国民文化祭・みやざき2020、第20回全国障害者芸術・文化祭みやざき大会」が開催されるため、全県的に文化的気運が高まってきている。当劇場には、その中核的役割を果たすこと、また、大会終了後も県民の文化意識の高まりを牽引し続けていくことが求められている。

一方、宮崎県民1人当たりの県民所得は231万5千円で、1人当たりの国民所得に対し75.7ポイントとなっている（平成27年度）。所得水準が高いとはいえない本県において、県民が舞台芸術に接する機会を増やしていくためには、助成金を活用しチケット価格を低廉にすることが不可欠である。

【有効性】

自己評価

目標を達成したか。

宮崎県立芸術劇場では、県民が舞台芸術に親しみ、その裾野を広げることを目的に、当劇場がこれまで蓄積した人的ネットワーク、実績、経験等を活用した事業を展開した。

県民の「観たい」「聴きたい」に応えるための公演事業では、人気の若手演奏家による演奏会やクラシック以外の音楽公演、実力派俳優の舞台公演なども実施し、ジャンルや対象世代の幅を広げたことで、観客の幅の広がりを実感することができた。

地域社会に凝縮されている社会課題を背景に、宮崎に生きる人々の営みを描いた演劇の自主制作公演は30年度で3回目を迎えた。国内第一線で活躍する劇作家に脚本を依頼することで、県民では見過ごされやすい課題や、地域社会の懐の深さが浮き彫りにされ、毎回、観客に新たな発見をもたらしている。

未就学児参加可能な親子向け公演では、対象年齢層を明確にしたプログラムにより、良質な舞台芸術を子どもたちに効果的に届けることができている。

人材養成事業では、県内で文化芸術活動の中核を担う人材、将来的に活動を行っていくための専門的知識の習得に努める人材が育ってきており、県民の鑑賞機会の創出にも繋がっている。

普及啓発事業では、舞台芸術への入口としてのワークショップ等を実施。県民の誰もが文化芸術活動に触れられ、自身の興味を深めることができる場を充実させた。

また、アンケート結果では宮崎市民が来場者の約7割を占めているため、宮崎市以外での公演や、県内公立文化施設や学校等と連携し、地域の実情に合わせた参加しやすい講座やアウトリーチを実施した。

平成30年度は、入場者数で当初目標に達していない公演もあった。演目に興味を持ちそうな層に情報が届いていないことが原因と考えられ、今後は詳細なマーケティングに基づく広報計画を立てることとする。

【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

平成30年度は、当初予算に対し、大幅な支出増となることもなく、計画通りに事業を遂行することができた。一部、目標としていた収入に達していない公演もあったが、その分支出を押さえる、もしくは事業全体の中で支出額の調整を行うことで、全体の収支バランスの維持に努めた。事業期間についても同様に計画通りに進んでいる。

鑑賞型の公演事業では、事業費の規模が入場者数にも反映しており、多くの入場者が来場した公演には比較的大きな事業費を要し、逆に入場者数の規模が小さい公演では、事業費もそれに合わせて低く抑えられている。また、これら鑑賞型の公演事業では公演日＝事業期間となるが、シリーズとして年間2～3回実施する事業や、同日に2公演実施する事業により、観客の定着や鑑賞機会の拡大を図っている。

一方、創造型の公演事業では、事業費、事業期間ともに他事業と比べて大きくなっているが、新作プロデュース公演であり約1ヶ月の稽古期間を確保したこと、これまで劇場に足を運んだことのない県民の来場を促すために著名俳優を起用したことがその要因である。
その結果、宮崎県民からは見過ごされやすい地域社会の懐の深さが鋭く描き出された作品となり、多くの観客から満足と共感を得ることができた。

県民参加型の事業（トライアル・シアター2018、オルガンとその仲間たちシリーズ）については、公演に向け十分な練習期間を確保するために事業期間を長く設定したことで、作品の質、参加者の満足度、共に高いものとなっており、参加者のその後の活動へと繋ぐことができている。同様に連続講座の実施などで事業期間が長かった演劇ワークショップについては、参加者の人数が予定を下回るといった課題も見えてきたため、令和元年度からは講座の仕組みを見直し事業期間を短縮、県民が参加しやすい期間を設定することとしている。

【創造性】

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

当劇場が実施する事業プログラムには、「県の芸術文化の拠点」としての高い芸術性が求められることから、劇場スタッフに加え、長年にわたり宮崎県の音楽界を牽引してきた桐原直子氏に音楽事業アドバイザーを、宮崎出身で東京を拠点に演出家として活躍する立山ひろみ氏に演劇ディレクターを委嘱し、より専門的な見地から企画、運営に当たっての指導、助言をもらっている。

また、NHKエンタープライズと事業アドバイザー契約を結んでおり、ジャンルを超えた幅広い見地から、高い芸術性と県民からの親しみやすさを両立させるための企画への助言等を得ている。

当劇場は「コンサートホール」「演劇ホール」「イベントホール」の3つのホールを有し、それぞれのホール特性を最大限に活かした事業を行っている。中でもコンサートホールの音響性能の良さは、国内外の第一線の音楽家からも高い評価を受けており、迫力あるオーケストラから繊細な表現の室内楽の公演まで、優れた鑑賞環境の中で提供することができている。

また、コンサートホールに設置された国産最大級を誇るパイプオルガンを活用するため、オルガン・チェンバロ奏者で東京藝術大学教授の大塚直哉氏にオルガン事業アドバイザーを委嘱し、事業の企画、運営についての助言をもらっている。

以下、特に創造的、独創的と認められる事業例

（1）公演事業

①「新 かぼちゃといもがら物語」#3『たのかんさあレンジャー』

地域社会に凝縮されている社会課題を背景に、宮崎に生きる人々の営みを描いた演劇の自主創作公演。土田英生氏、長田育恵氏に続く第3作の作家は、小説家としても活躍する成井昭人氏。出演に数々の映像作品に出演する矢柴俊博氏、劇団KAKUTAを主宰する桑原裕子氏ほかを迎えた。また美術プランナーは、第25回読売演劇大賞最優秀スタッフ賞を受賞した土岐研一氏。演出は立山ひろみ演劇ディレクター。

②シリーズ〈大人のためのコンサート～なるほどクラシック講座〉

桐原直子音楽事業アドバイザーの企画によるシリーズ。「大人の知的好奇心をくすぐる」をキーワードに、毎回わかりやすい解説付きで気軽に音楽を楽しんでいただくコンサート。30年度は「東欧の音楽」をテーマに、チェコからクーベリック・トリオを招いた。

③オルガンとその仲間たちシリーズ

大塚直哉オルガン事業アドバイザーの企画・監修によるシリーズ。30年度は劇場開館25周年を記念して、ヘンデル「メサイア」を演奏。合唱、ソリストは一般公募、またバロック音楽界の第一線で活躍する演奏家による古楽器オーケストラには、県内の演奏家も参加。

（2）人材養成事業

①トライアル・シアター2018

国内第一線のアーティストと公募で選ばれた県民が、約1週間で舞台作品を創作するシリーズ。30年度は三重県を拠点に活躍する演出家 鳴海康平氏を迎え、岸田國士の戯曲に挑戦した。

（3）普及啓発事業

①Let' s 和の音♪

参加者の興味の度合いに合わせて3つのコースを選べる邦楽のワークショップ。併せてプロの演奏家による邦楽演奏会の鑑賞機会も提供することができた。

【創造性】

自己評価

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

前述の3つの公演事業では、県内在住のアーティストや参加者が国内第一線で活躍するアーティストと共演することで、それぞれのレベルアップが図られ、県内の芸術文化活動の振興にも寄与している。また、県内在住者の出演により、県民からの親近感と来場者の増大にもつながっている。

人材養成事業では、県内で文化芸術活動の中核を担う人材や、将来的に活動を行っていくための専門的知識の習得に努める人材が育ってきており、地域の文化芸術の振興の一翼を担っている。

邦楽のワークショップでは、参加者の中に「和楽器を継続的に学びたい」という子どもたちも見られ、新たな芸術文化への入口を開くことができた。また大人を対象としたコースを希望する声に応じて、令和元年度実施の事業では、大人向けのコースも新設することとした。

【持続性】

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

宮崎県立芸術劇場が宮崎県の芸術文化の拠点として持続的に発展していくために、次のような人事戦略、経営戦略の基で事業を運営している。

●専門スタッフの確保と育成

企画制作、舞台技術、経理等の高い専門性と、劇場運営への広い視野を併せ持つ人材を育成するため、各種研修や先進施設への視察を行うことで、財団スタッフの知識と専門スキルの向上を図っている。

また、新規採用と人事制度（異動と昇格）で人材の確保とその能力・意欲の向上を図り、将来的に財団運営を担える人材の育成に努めている。

30年度からは無期雇用へと順次移行し、職員が長期的なキャリアプランを持てるようにした。

●自主財源の確保

当劇場の運営財源は、設置者である宮崎県からの指定管理料が約65%を占めているが、安定的な運営のためには協賛金等の自主財源も確保しなければならない。

子どもたちに良質な舞台作品を提供する公演や、宮崎を題材とした演劇の自主制作公演への協賛、オーケストラ公演への冠協賛等、企業・団体のCSR活動に資するような公演では、その趣旨を積極的に提案し、継続して支援を得られるよう努めていく。

施設使用料収入は、平成28年度を100とした場合、29年度は102、30年度は108と順調に推移している。約2,000人の県民が参加した劇場開館25周年記念イベント（県民参加型・6企画）等をとおして、劇場の存在を改めてアピールし、劇場利用者と使用料収入の増加へとつなげていきたい。

劇場友の会の会員数は、概ね1,500名で推移。話題性のある人気公演を定期的に企画することで新規入会、及び既存会員の継続の動機付けとし、会員数の維持、拡大を図っている。

補助金・助成金では、文化庁文化芸術振興費補助金のほか、（一財）地域創造からの助成金を連続して獲得しているが、引き続き補助金等が得られるよう、採択時の評価点を基に事業内容や収支予算を検証・改善していくこととしている。



県立芸術劇場開館25周年感謝祭「けんげき25（にこ）フェス」より

左：大友良英 with てげてげオーケストラ 右：フードブース